

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	158人	社会	158人	数学	158人
	理科	158人	英語	158人		

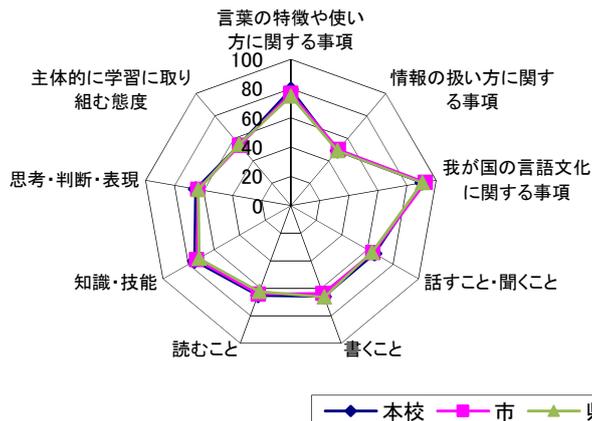
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.5	76.9	74.9
	情報の扱い方に関する事項	49.1	50.3	49.2
	我が国の言語文化に関する事項	90.5	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	65.4	64.2	63.4
	書くこと	66.0	63.7	66.4
	読むこと	65.2	64.2	62.5
観点	知識・技能	75.4	73.7	71.9
	思考・判断・表現	65.5	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	54.4	53.8	54.8



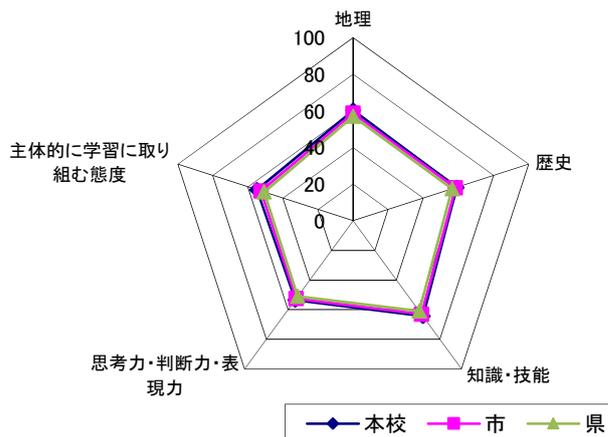
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>○市の正答率を2.6ポイント、県の正答率を4.6ポイントを上回っている。</p> <p>●文節の関係について理解しているか問われた問題で正答率は市、県ともに上回っているが、47.5%と正答率が半分を下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・正答率を上回った漢字の読み書きについては、引き続き漢字テストを継続し定着させる指導を続ける。</p> <p>・今回問われた文節の関係は修飾・被修飾の関係が同一のものを選択する問題であったが、他の選択肢として挙げられた並立の関係、補助の関係、主語・述語の関係と区別出来ていないことが正答率が低い要因だと考えられる。そのため、文法を扱う単元において、再度文節同士の関係についての指導を行う。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈しているか問われた問題では、市の正答率を0.2ポイント、県の正答率を1.6ポイント上回った。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、自分の考えが明確になるように、話の構成を考えているか問われた問題では、市と県の正答率を下回っている。</p>	<p>・正答率が上回った問題は、説明的文章を読み取り本文中から書き抜く問題であった。引き続き文章から情報を読み取り書き抜く指導を行っていく。</p> <p>・正答率を下回った問題は記述式で22.2%が無回答であることが正答率を下回った要因だと考えられる。無回答を防ぐために、授業時に行う小テストや単元テスト等において空欄の無いよう日頃から指導を行う。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>○歴史的仮名遣いについて理解しているか問われた問題では、9割の生徒が正答できている。</p> <p>●歴史的仮名遣いについて理解しているか問われた問題で、正答率は高かったものの、市と県の正答率を下回っている。</p>	<p>・正答率自体は高いため、引き続き定着出来るよう指導する。</p> <p>・市と県の正答率を下回った要因は無回答率だと考えられる。こちらも情報の扱い方に関する事項と同様、日ごろから無回答がないよう指導していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○自分の考えが明確になるように、話の構成を考えているか問われた問題では、市の正答率を5.7ポイント、県の正答率を5.4ポイント上回っている。</p> <p>●話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめているか問われた問題では、市と県の正答率を上回ったが、4割を下回っている。</p>	<p>・自分の考えが明確になるような話し方を意識させる指導を引き続き行っていく。</p> <p>・条件に沿った記述が出来るよう、問題で問われていることについて正しく読み取り、それについて答えさせる指導を行う。</p>
書くこと	<p>○2段落構成で文章を書いているか問われた問題では、市の正答率を4.3ポイント、県の正答率を1.3ポイント上回っている。</p> <p>●読み取った内容を明確にして書いているか問われた問題では、市の正答率を0.4ポイント、県の正答率を1.6ポイント下回っている。</p>	<p>・段落構成については引き続きその条件に沿った書き方が出来るよう指導していく。</p> <p>・資料から必要な情報を読み取り、それを書くような問題に取り組みさせていく。</p>
読むこと	<p>○登場人物の心情について、描写を基に捉えているか問われた問題では、市の正答率を3.2ポイント、県の正答率を4.6ポイント上回っている。</p> <p>●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えているか問われた問題について市と県の正答率は上回っているが、過半数を下回っている。</p>	<p>・文学的な文章の読み取りについては引き続き情景描写と結びつけながら読み取っていく指導を行っていく。</p> <p>・説明的な文章の読みとりについては、段落ごとに内容をまとめさせることや、段落同士の関係を読み取らせることを通して文章全体の構成や展開を読み取らせる指導を行っていく。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	60.3	58.7	57.0
	歴史	58.9	58.3	56.4
観点	知識・技能	64.4	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	53.4	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	54.9	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

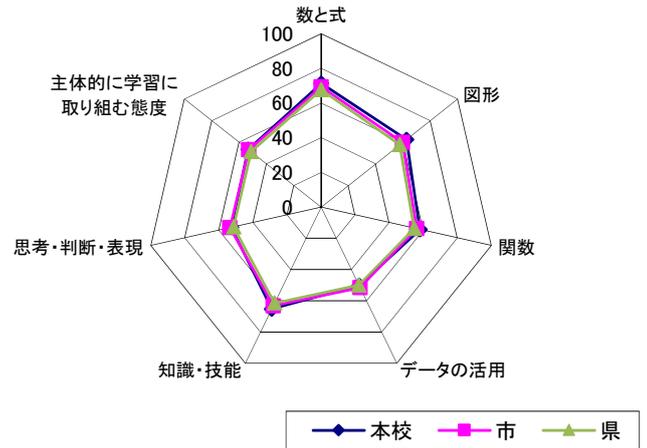
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○正答率は60.3%で、市平均と県平均より高い。乾燥した地域に住む人々の暮らしについての問いは、正答率が78.5%と、市平均71.8%・県平均66.8%に対して特に高い。</p> <p>●アジア州の農業生産、またヨーロッパの農業について資料をもとに考察する問題の正答率が各々20.9%と19.6%で、特に低い。</p>	<p>・複数の資料をもとに考察する学習活動を意図的に多く行うことで、資料を読み取る手順を習得させる。</p> <p>・農業は気温や降水量など、自然条件と密接な関わりがあることに授業の様々な場面で触れることで、地理的思考力を育成し、なぜ地域によって異なる農業を行っているのかを理解できるようにしていく。</p>
歴史	<p>○正答率は58.9%で、市平均と県平均より高い。時代区分についての問題は、正答率が80.4%と、市平均72.7%・県平均72.0%に対して特に高い。</p> <p>●奈良時代の人々の負担について、複数の資料を読み取る問題の正答率が60.1%で、市平均68.8%と県平均65.8%を下回っている。</p>	<p>・複数の資料をもとに考察する学習活動を意図的に多く行うことで、資料を読み取る手順を習得させる。</p> <p>・時代区分についての知識・理解をもとに、前後の時代との違いや時代の流れを概観する学習活動を多く取り入れることで、各時代の特徴を理解できるようにしていく。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	71.3	69.3	67.7
	図形	62.5	59.8	57.7
	関数	58.0	56.2	54.7
	データの活用	50.2	51.6	49.9
観点	知識・技能	65.3	63.2	61.5
	思考・判断・表現	52.7	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	53.3	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

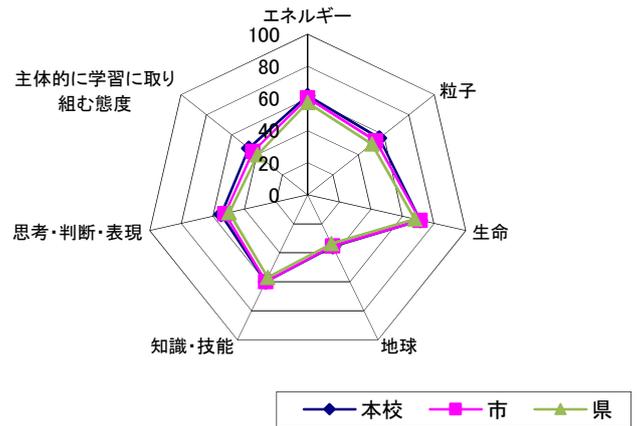
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○平均正答率は71.3%であり、市平均より2ポイント、県平均より3.6ポイント高い。特に、比例式の問題は県平均より10.1ポイント高い。</p> <p>●1次方程式を解く問題の正答率が県平均より0.9ポイント低い。</p>	<p>・基本的な計算問題は、Aドリル等も活用しながら単元の中で着実に身に付けられるようにしたい。</p>
図形	<p>○平均正答率は62.5%であり、市平均より3.2ポイント、県平均より4.8ポイント高い。特に、ねじれの位置についての問題の正答率は県平均より10.3ポイント高い。</p> <p>●各の二等分線の作図の正答率は県平均よりは高いが、39.1%と正答率が低い。</p>	<p>・前の学年の学習内容など、学習してから時間が経過した問題についても定期的に復習の機会を設けたい。</p>
関数	<p>○平均正答率は58.0%であり、市の平均を2.4ポイント、県の平均より3.3ポイント高い。特に、比例のグラフをかく問題は県平均より11.5%高い。</p> <p>●ともなって変わる2つの数量関係についての理解に不安のある生徒がいる。</p>	<p>・「関数」という語句はどの学年でも用いられるので、各学年の導入時に、意味を丁寧に確認したり、関数関係にある2つの数量を見つけるなどの問題に取り組ませたい。</p>
データの活用	<p>○平均正答率は50.2%で市平均より1.4ポイント低い、県平均よりは0.3ポイント高い。特に、相対度数を求める問題は県平均より5.9ポイント高い。</p> <p>●度数折れ線の特徴から示された考えが正しいことを記述する問題の正答率が県平均より3.8ポイント低い。</p>	<p>・データの活用は、他の領域と比較すると定着に不安があることが明らかとなった。単元テスト等の復習を取り入れながら、学習の定着を図りたい。</p> <p>・記述問題に「無回答」があるので、授業の中で記述問題を取り入れるよう工夫していきたい。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	61.8	60.3	57.4
	粒子	56.6	53.8	50.7
	生命	71.2	71.2	67.8
	地球	35.7	35.3	33.8
観点	知識・技能	59.9	59.9	57.0
	思考・判断・表現	54.8	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	46.6	43.3	39.8



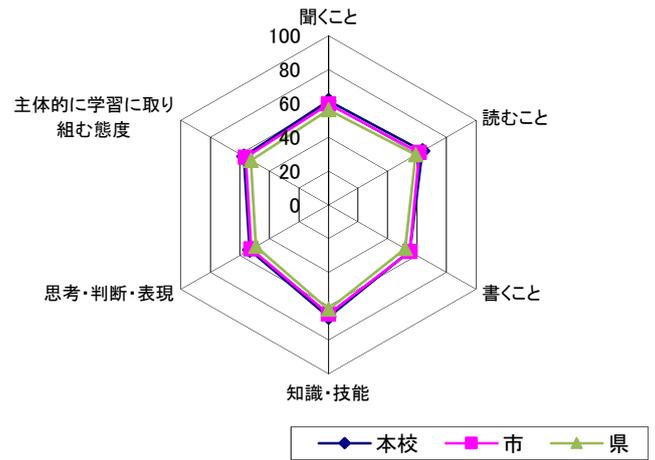
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○校内正答率は61.8%であり、県の平均57.4%を上回っている。音の性質についての問いでは正答率75.6%と82.1%であり学習の定着が見られる。</p> <p>●光の性質の単元では3問中2問の正答率が60%を下回っており光の反射や屈折、光の道筋について間違った覚え方をしている生徒が一定数いる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・光の性質では、反射や屈折の光の進み方など似通った内容では内容が交錯してしまい、結果間違った覚え方をしていることが分かる。説明の際、似た範囲を教える際に振り返りとしてもう一度確認したり、類似しているのに注意をするようにと声掛けなどをしていく。</p>
粒子	<p>○校内正答率は56.6%であり、県の平均50.7%を上回っている。気体の性質についての問いでは表やグラフから読み取る問題において、県の正答率44.4%のところ校内正答率は50.6%であった。</p> <p>●全体的に県の正答率は超えてはいるが正答率は60%を下回っているので多くの生徒が内容を覚えてはいるが活用できるまで理解をしていない。</p>	<p>・性質として暗記するのではなく、なぜその性質になるのかを念頭に置いて、課題設定をするなど生徒が疑問から内容を理解できるよう授業を展開していけるよう注意していく必要がある。</p>
生命	<p>○校内正答率は71.2%と他の3分野よりも高い数値を示しており、生徒の理解度が高い分野であることが伺える。中でも植物の仲間分け、脊椎動物と無脊椎動物の違いなど正しく覚えている生徒が多くいた。</p> <p>●軟体動物や無脊椎動物についての問いでは正答率が35.3%とかなり低い数値であった。脊椎動物との対比はできるが、無脊椎動物について理解をしているようではない。</p>	<p>・比較として授業を展開することがあるが、初めから比較ではなく、それぞれ別々に詳しく説明したあと、学習の振り返りとして比較や自分で説明ができるよう指導していく。</p>
地球	<p>○正答率は35.7%と数値として低いが市平均、県平均よりも高い数値を得ていた。</p> <p>●全体的に火山や地層の内容の正答率は殆どが50%を下回っている。柱状図の説明問題では正答率7.7%であり、地層から実際の層の積み重ね方を俯瞰的に読み取ることが出来ていない。</p>	<p>・火山や地層の範囲では、生徒の学習が暗記傾向になってしまっているため、時間が経って忘れてしまっている生徒が多くいるので、授業の中で具体的な覚え方などを提案したり指摘したりする必要がある。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県, 市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	61.5	59.6	56.1
	読むこと	63.7	61.6	59.1
	書くこと	55.1	55.2	51.9
観点	知識・技能	66.4	64.7	61.9
	思考・判断・表現	53.4	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	57.2	56.1	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○平均正答率が県より5.4, 市より1.9ポイント高い。絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。対話の内容を聞き取り, 適切に応答することができる。英文の概要を聞き取ることができる。</p> <p>●英文を聞き取り, たずねられたことに対して自分の考えを英語で答える問題の正答率が22.2%と低い。</p>	<p>・対話のテーマを与え, 「相手からの問いかけに対して, あなたなら何と答えるか」という活動を通して, 自分の考えを話すことに留まることなく, 簡潔に書かせる活動へと発展させて取り組ませる。</p>
読むこと	<p>○平均正答率が県より4.6, 市より2.1ポイント高い。対話文の情報を正しく読み取ることができる。チラシの概要を理解することができる。対話の流れと表から, 登場人物の適切な発言を選ぶことができる。</p> <p>●読み取った内容をふまえて, 対話文を完成させる問題の正答率が38.6%と低い。</p>	<p>・英語の文章を読んだ後に, ところどころに空欄が設けられた要約文を穴埋めさせたり, 対話文を完成させたりする活動に取り組ませる。</p>
書くこと	<p>○平均正答率が県より3.2ポイント高い。正しい語順で現在進行形の英文を書くことができる。</p> <p>●平均正答率が市より0.1ポイント低い。対話の流れに合った英文を書く問題の正答率が26.6%と低く, 与えられた情報に基づいて3人称単数現在時制の文を書く問題の正答率も38.0%と低い。</p>	<p>・日常会話表現を身に付けさせる活動を定期的に行っていることを踏まえて, 対話の内容を書かせる活動へと発展させて取り組ませる。</p> <p>・文法理解を図るために, 特に動詞の時制に関する理解を深めるための学習活動を通して, 正確に書くことができるよう指導する。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答した生徒の割合は69.8%で市よりも4.9ポイント、県よりも6.3ポイント高い。これは「自主学習ノート」を使って、生徒自らが学習課題を考え、毎日取り組み、提出していることの成果と考えられる。今後も継続し、自主的な学習への取り組みを支えていきたい。

○「家で、学校の予習をしている」と回答した生徒の割合は56.6%で市よりも11ポイント、県よりも14.7ポイント高い。学習塾に通っている生徒も多く、学習に対する意識の高さがうかがえる。この結果を授業に生かし、学力の向上に努めたい。

○「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」と回答した生徒の割合は73.0%で市よりも4.1ポイント、県よりも5.7ポイント高い。テストを見直し、次につなげていこうとする意識の高さがうかがえる。良い傾向なので今後も継続し、力を伸ばせるよう声掛けをしていきたい。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」と回答した生徒は79.8%で市よりも8.3ポイント、県よりも9.7ポイント高い。休み時間にも多くの生徒がタブレットを学習道具として活用しており、その操作に長けている。情報教育も並行して行いながら更にインターネットやタブレットの適切な利用を進めていきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した生徒は67.2%で市よりも5.1ポイント、県よりも5.5ポイント低かった。予習はよくやっているが、復習にはあまり力を入れていないことが分かった。予習と復習のバランスの取れた家庭学習について保護者会や各種便り等で発信していきたい。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」と回答した生徒は66%で市よりも6.5ポイント、県よりも5ポイント低い。TTや習熟度別学習を活用し、授業中に質問できる態勢づくりを心がけていきたい。

●「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」と回答した生徒は82.4%で市よりも6.1ポイント、県よりも8.7ポイント低い。授業中に自分の考えを安心して発言したり、多様な考えに耳を傾けられるような雰囲気づくりを心がけていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化	自主学習ノート(実施6年目)を使って、生徒自らが学習課題を考え、毎日1ページ程度取り組み、提出するよう指導する。	「家で、学校や塾の決められた宿題のほか、に自分で考えた勉強をしている。」に対する肯定的な回答割合が62.9%であり、県平均より4.4ポイント、市平均より0.5ポイント高い。
基礎・基本の定着	基礎的な学習内容の定着を図るために、朝の学習の時間(10分)を週に2回設定し、一人一人の学習状況に応じて最適な問題が出題されるAIDリルに取り組ませる。	基礎に関する全教科の正答率の平均が、昨年度は県平均より4.8ポイント、市平均より3.6ポイント高い。今年度は、県平均より3.5ポイント、市平均より1.5ポイント高い。
振り返りの充実	昨年度より、タブレットを駆使した振り返り活動に取り組む。	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」に対する肯定的な回答割合が79.3%であり、県平均より1.7ポイント、市平均より5.9ポイント高い。